

学而時習之 不亦説乎

書き下し文

学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。

朋、遠方より来たる有り、亦樂しからずや。

現代語訳

「論語」のはじめ（学而第一）にある一節です。私は、この一節がとても好きです。三年生が、国語の授業（漢文の單元）で学習していく、久しぶりにこの一節に触れました。古代の人々も現代の私たちと同様に「学び」を大切にしています。学んだことを復習して、自分のものにすることを大変喜ばしく感じています。友人との出会いも同じです。友人が訪ねて来てくれるることは、今の私たちも嬉しいものです。

「論語」のこの一節は、何かタイムスリップしたように古代の人々の思いとつながっているような気になれるのが、とても「いいなあ」と思えます。生徒の皆さん、この一節をどのように思いますか。一度、思いを巡らせてください。

※「論語」・古代中国の哲学者「孔子（紀元前五五二～紀元前四七九）」が述べたものを弟子たちがまとめたもの



「読書週間」

10月27日（火）～11月9日（月）
今年の標語は、『ラストページまで駆け抜けて』です。秋の夜長、1冊の本をゆったりとした気持ちで、読んでみましょう。

実施できること、そのものが喜ばしい
「学校行事」（修学旅行・運動会・文化祭）

修学旅行（9月8日・9日・10日）、運動会（9月28日）、文化祭（10月23日）を今年度に実施できること、本当にうれしく思います。新型コロナウイルス感染症の防止対策を講じながらの日々の教育活動を進める中で、実施できるかどうかから検討をしなければならなかっただけに、無事に実施でき、安堵しています。様々な制限があり、規模の縮小や時間の短縮を余儀なくされるものの、一中生は、その場その瞬間を本当に大切にして取り組んでいました。まさに「一所懸命」の言葉通りです。

修学旅行では、3年生がより友情を深め、相互の良さが改めて分かり合えたことだと思います。運動会では、限られた出場機会でしたが、生徒たちは精一杯躍動していました。応援合戦も工夫を凝らし、3年生のリーダーが団をまとめて素晴らしいパフォーマンスを繰り広げていました。文化祭では、短い期間でクラスの合唱を仕上げて、見事に歌いきっていました。自らの思いをしっかりと語ってくれた「私の意見」、日々の学習や練習の成果を演奏や作品に込めていました。

11月以降の様々な学校行事にも、生徒の皆さんのが精一杯取り組み、「学び」を高めてくれることを期待しています。